

記 録

日本保育學會記事

日本保育學會は、我が國でこれまで、保育に関する考察が單なる意見や感情論が多く、理論的な深みのある研究が少いことをうれいて、昭和二十三年に發足した。

發足した当初は前途に種々の困難を豫想したのであるが、本年五月第四回の大会を開くに至り、その基礎も漸くかたまりかけたという感がする。

一、第四回大会

第四回大会は、昭和二十六年五月二十七日（日曜）午前九時から午後五時まで、お茶の水女子大学附属幼稚園を会場として、次のごとき次第ですめられた。

開会の辭

研究發表

- | | | | |
|------------------|-------|---------|---------|
| 午前九時 | 午後二時 | 会 長 | 倉 橋 惣 三 |
| 一、幼児の神経質に関する調査 | 愛育研究所 | 平 井 信 義 | |
| 二、幼児童話に於ける道徳観 | 東京高等 | 保 育 学 校 | 内 山 憲 尙 |
| 三、幼児の生活と童話教育について | 隆崇幼稚園 | 寺 田 豊 子 | |
| 四、保育知識のアチーヴメント | 愛育研究所 | 森 脇 要 | |
| テストについて | 愛育研究所 | 竹 田 俊 雄 | |
| 五、保育効果に関する一調査 | | | |

六、保育医学の諸問題

七、保育園科学の必要性について

八、乳歯むし歯の意義

九、保母の健康に関する調査

一〇、保育施設一元化問題共同研究報告

特別講演

「アメリカの幼児教育」

シンポジウム「保育施設と家庭及び学校」

午後三時—五時

午後二時—三時

- | | | |
|--------------|--------|---------|
| 一、幼稚園と家庭 | 愛育研究所 | 山 下 俊 郎 |
| 二、保育所と家庭 | 江東橋保育園 | 鈴 木 と く |
| 三、幼児保育施設と小学校 | 南山小学校 | 小 林 操 |
| 四、保育施設と家庭と学校 | 愛育研究所 | 齋 藤 文 雄 |
| 五、家庭と幼稚園と小学校 | 文 部 省 | 武 田 一 郎 |
| 閉会の辭 | 副会長 | 山 下 俊 郎 |
- たゞしシンポジウムにおいて牛島義友氏は所用のため欠席せられ、齋藤文雄氏は出張のために愛育研究所員平井信義氏が代つて發表せられた。
- 本大会は折悪しく雨天に見舞われたのであるが、それでも約三百の会員が集り、特に近隔地から本大会のみを目指して上京して来た人の多いことが目立つた。

保育医学
研究會
相 塚 均
田 英 一
田 惠 朗

保育医学
研究會
田 田 惠 朗

保育園科学
研究會
高 橋 英 朗

愛育研究所
研究會
平 井 信 義

東京家政
学 校
山 下 俊 郎

奈良女子大学
小 川 正 通

来会者の府県別内訳は次の通りである。

山形八・宮城一・群馬九・千葉一〇・東京一四九・神奈川三四・埼玉四・新潟七・長野三・山梨四・静岡一・愛知三・滋賀一・三重一・奈良三・京都四・大阪一〇・兵庫一〇・広島二・山口一・大分一・熊本一。

二、総 会

本学会会則第二十条による昭和二十六年年度通常総会は、右の大会を利用して二十七日零時半から開催せられ、前総会から延ばされていた役員の改選をおこなった。

まず倉橋会長が議長に推され議事がすすめられたが、竹田委員より、事業報告として、奈良女子大学における第三回大会開催の件、月例研究会の件、及び共同研究の件について報告があつた後、村山委員より、前年度決算の報告が別項のごとくおこなわれた。次いで竹田委員より、二十六年度事業計画として、(一)第四回大会開催、(二)フレイベル記念講演会開催、(三)月例研究会開催、(四)会報発行、及び(五)講習会開催について説明があり、特にフレイベル記念講演会について倉橋会長より詳しい説明があつた後、村山委員から、右と関連して昭和二十六年度豫算の説明がおこなわれた。

決算報告の概要は次の通りである。

収入合計 五万八千七百三拾五円四拾六銭

内 訳

前年度より繰越金 九、七六五円四六銭

寄 附

二〇、〇〇〇円

会 費

二八、八五〇円

利 子

一二〇円

計

支出合計 三万五千六百三拾四円

内 訳

一、人件費

二、〇〇〇円

二、事業費

三三、二六四円

三、物件費

三七〇円

計

残 金 二万三千百一円四拾六銭

豫算の概要は次の通りである。

収入合計 四万五千六百一円四拾六銭

内 訳

一、前期よりの繰越金

二三、一〇一円四六銭

二、会 費

二〇、〇〇〇円

三、講習会費

二、五〇〇円

支出合計 四万五千六百一円四拾六銭

内 訳

一、人件費

二、〇〇〇円

二、事業費

四二、六〇一円四六銭

三、物件費

一、〇〇〇円

更に、議長より新委員の改任方法について諮問があり、便宜的に会長、副会長に一任せられた結果、新委員として別項の諸氏が依囑せられた。

なお大会終了後、新委員による最初の委員会において全会一致で会長副会長の留任を決定し、常任委員を別項のごとく選出した。

最後に議長より、次期大会の開催方法について諮問があり、その結果次期大会は名古屋で開催せられることに決つた。

三、月例研究会

月例研究会は種々の事情によつて、次のように一回しか開くことができなかったが、来会者は五十一名にのぼり非常に盛会であつた。

題目 幼児期の生活経験

松村康平氏

昭和二十六年四月二十一日(土)午後二時—四時
愛育研究所において

四、共同研究

会則第三条にある共同研究が、今回はじめて實際的に成果をあげることができたことは、本学会にとつて記念すべきことであると言わなければならない。

その内容については、研究委員長山下俊郎氏の大会における発表を本誌の二八頁に掲載したから、それをみられたい。

五、その他の事業

第三回大会における発表をまとめて「日本保育学会大会特輯号」を雑誌「保育」の特輯号(第五巻第十号)として発行した。

六、新しい役員と会員の現状

新役員は次の通りである。

会長 倉橋惣三 副会長 小川正通・山下俊郎

委員 (◎印は常任委員)

秋田美子・浅野寿美子・◎及川ふみ・大西憲明・岡田しげの・上

村哲弥・菊地ふじの・城戸幡太郎・齋藤文雄・◎児玉省・坂元彦太郎・島津峯真・莊司雅子・周郷博・鈴木とく・◎鈴木信政・砂田恵一・副島ハマ・◎竹田俊雄・珠川善子・土屋マサ・波多野完治・◎平井信義・古木弘造・堀要・根岸草苗・三木安正・◎村山貞雄・◎森脇要・山崎ときの・山村きよ・◎吉見渾江

会計監査 牛島義友

会員の現状は次のごとくである

正会員 一八三名・準会員 八二八名・賛助会員 二名